



出水市立 鶴荘学園

児童生徒数 92 人
学級数 11 クラス



《テーマ》 子供の学びをつなぐ義務教育学校カリキュラムの創造 ～一人一人が大切にされ、よさや可能性を発揮できる学びの場を目指して～

研究に当たって（テーマ設定の理由）	研究の実際
<p>人権全般に関することへの理解を深めること、また、ワークショップ型の職員研修及び授業の実践、学校行事の取組や活動を積極的に取り入れることにより、人権尊重の視点に立った学習指導、道徳指導、生徒指導、保健指導等、調和のとれた実践及び児童生徒の育成を推進していくために本テーマを掲げ、研究に努めた。</p>	<p>7月10日（月）…PTA学習会 講演「人権教育は全ての教育の基本」 講師：県教育庁人権同和教育課指導主事</p> <p>8月31日（木）…職員研修 「令和5年度版人権教育研修資料に基づく講話及び参加型学習とグループ討議」 講師：県教育庁人権同和教育課指導主事</p> <p>10月31日（火）…模擬授業参観及び研究討議 前期課程5・6年生学級活動「自分を守る権利について知ろう」 講師：県教育庁人権同和教育課指導主事</p>

特色ある取組(他校にもおすすめの取組)

上記に掲げた講演や研修、模擬授業で学んだ人権教育の視点を踏まえながら、以下の取組を行った。

□ ひまわり集会

全校児童生徒集会として、1年生から9年生までが参加する縦割り班活動の中で、児童生徒が自分の人権標語を発表し合ったり、仲間づくりの一貫として「サイコロトーク」などを行ったりした。児童生徒がグループ内で自分の思いを伝えたり、相手の意見を聞いたりすることで、相手のよさだけでなく自分自身のよさにも気付くことができた。



□ ツル科の学習

後期課程全員で協力しながら、ツル羽数調査を行ったり、課題解決学習の中で、自分の思いや考えを発表したり、相手の考えに賛同したりすることで、児童生徒たちが自他を認め合い、信頼し合える取組ができた。



□ お米とわたしたち～米作り～

米作りや収穫祭などの活動を通して、幼稚園児や前期課程の児童、後期課程の生徒、地域の人々との交流を深めることで、人と人とのつながりや農業の素晴らしさを実感することができた。また、児童生徒たちは、収穫のお礼の手紙作成を通して、自身の頑張りや他者への感謝の気持ちを表現し、伝えることができた。



子どもの人権プロジェクト推進校の取組の成果と課題(子どもの変容、よかったこと、今後やってみたいこと)

- 講師による模擬授業や講演、命の授業、学校行事の取組を通して、児童生徒、教職員、保護者それぞれが、より自身の「人権」や「権利」について知りたい、学びたいという興味・関心を高めることができた。
- 他者との関わりの大切さだけでなく、まず自分自身を大事にすることで、よりよい人権感覚や意識が高まることに気付くことができた。
- 今回の研究や取組を通して学んだことを生かしながら、ワークショップ型や参加型学習等のより積極的な実践と、自他を見つめ向き合うための人権学習の授業づくりや研修の充実を図りたい。